

長野県木島平村 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ° 2024

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光……自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 村長や住民の方々に、直接お話をお伺いする機会があります
- 地域の実情を知るとは卒業後の職業観やキャリアプランを考えるキッカケにもなります
- グローバルエデュケーションセンター全学副専攻「地域連携・地域貢献」および実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラム（2単位相当）です（注意事項⑩要参照）

テーマ

デジタル技術が高齢者が身近に感じる 施策を考えて生活を豊かにしよう！

近年デジタル化、オンライン化が進む一方、対応できずに取り残される方が多くいます。木島平村でもスマホ教室等が行われていますが、ほとんどの高齢者がデジタルを身近に感じられていないのが現状です。

また村では、高齢等による免許返納に伴う、交通弱者への対応としてデマンド交通を実施していますが、前述の理由から電話予約に限定されており、さらに、運行ルートや受付業務もその都度個別に対応するなど、木島平村としても対応に苦慮している所です。

こうした現状の中、使いやすいデジタル技術、交通対策のDX化などが村の課題であります。

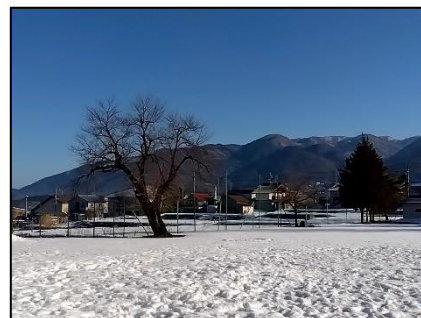
そこで学生の皆さんには早大生ならではの柔軟な発想で、村民が身近に感じるデジタル施策を提案いただければと思います。

なお、「アプリの作成や、金銭やポイント等の見返りを付与する」以外の工夫や試作を期待しています。提案は可能な限り事業化していく予定です。

木島平村の魅力

木島平村は、長野県の北部（北信濃エリア）に位置し、東京から新幹線とバスを乗り継いで2時間ほど、約260キロ離れた場所にあります。

日本の原風景ともいわれるのどかな里山風景が広がり、温泉、スキー場、高山植物、紅葉等々、四季折々の表情が楽しめる農村地域です。米作りが盛んで、木島平米はかつて江戸城に献上されていたほどの美味しさ。米のコンクールでは、10年連続最高賞を受賞しています。豪雪に由来する、清らかな水と肥沃な大地を求めて、季節を問わず訪れる人は後を絶ちません。



募集概要

募集期間	2024年11月25日（月）～12月11日（水）23：59 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと
募集人数	2チーム（10名程度）
応募方法	1. 事前説明会（オンライン）【応募の際には必須参加】 日程：11/25（月）、12/6（金）、12/11（水）12:30～12:50（全日程） ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メール、教育連携課 Web および Instagram でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記3日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※参加任意となりますが、事前相談会（12:50～13:10）も上記日程で実施します。 2. 事前説明会参加後、以下の手順もしくは右のQRコードのリンク先から応募 ①MyWASEDAにログイン ②お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2024 春編」を検索 ③「地域連携ワークショップ 2024 春編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請 
選考方法	書類選考：結果通知は 2024年12月25日（水）までにWasedaメール にて通知します。
注意事項	① 当ワークショップは正規授業ではないため、成績評価・卒業単位の認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、長野県木島平村となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ※公式活動日は活動時間前後の時間も余裕をもって確保してください。 ④ オンラインで活動する場合があります。その場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないように措置を講じてください。 ⑤ 自己負担費用目安： 往復交通費（17,160円程度）、宿泊費及び食費等（11,000円程度）合計 28,160円程度 〈交通費目安〉東京⇄JR 飯山駅 新幹線/指定席 ※飯山駅⇄木島平村は村のバスで送迎します 〈宿泊先〉村内の「仲山荘」を利用し、一部宿泊費は村が負担しています。※宿泊先はペット可 ※但し、後日大学より地域連携ワークショップ活動助成金としての補助があり、交通費等の自己負担額は10,000円程度になる見込みです。 ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施される企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。また、同時期に実施される地域連携スタディツアーに参加する学生の応募は受け付けません。 ⑦ 当ワークショップは複数の地域（第2希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは1地域のみです。当地域を第1希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第2希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度（傷害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。 ⑨ ワorkshop実施日と重複する正規授業等を欠席した場合でも、公欠扱いとはなりません。 ⑩ ワorkshopでは連携先、大学がInstagram等公式SNSを含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。掲載の際には個人特定されないよう十分注意いたしますが、予めご了承ください。 ⑪ このプログラムは、グローバルエデュケーションセンターの提供する全学副専攻「地域連携・地域貢献」^(注1) および実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。 注1：＜2025年3月卒業予定で副専攻修了を目指す方＞ 認定手続きのスケジュールの都合上、副専攻の単位相当にはなりませんので、ご注意ください。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※プログラム内容等は変更が生じる場合があります。

ワークショップスケジュール（公式日程）

授業等により、やむを得ず欠席／遅刻／早退となる可能性がある場合は、その日程と理由を応募の際にお知らせください。

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	2025 年 1/20 (月) 17:30～20:00	○ 参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ○ 自治体担当者からの説明 ○ 自治体の課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ○ 今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明
②	交流会 @早稲田大学	2/4 (火) 10:00～12:30	○ ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ○ フィールドワーク前の注意事項確認 ○ チーム分け発表（5人×2チーム予定） ※自治体担当者の出席はありません。
③	事前調査期間		○ 各チームで、木島平村について調査／情報収集を行い、テーマに対する仮説を立てる ○ ヒアリングに関する事項（ヒアリング希望先、質問内容など）を検討し、2/6（12:00）までに自治体へ提出 ○ 必要に応じ、大学キャンパスにてグループワーク
④	フィールドワーク前 オンラインヒアリング 期間 (@Zoom)	2/13 (木) 2/14 (金)	○ フィールドワークに先立ち、仮説検証等に必要なヒアリングを行う ※実施日時はヒアリング先との調整によるため、左記の日程は予めスケジュールを空けてください。
⑤	フィールドワーク @木島平村	2/17 (月) ～ 2/20 (木) 【3泊4日】	○ 木島平村内及び近隣市町村の観光施設などを訪問 ○ 村長をはじめ、木島平村の関係者の方々へのヒアリングを実施 【^{ひだり}白墓村長懇談：2/17 (月) 14:00～16:00 内予定】
⑥	対面グループワーク (@早稲田大学)	2/26 (水) 10:00～17:00	○ 中間報告会前に学内施設でグループワーク実施 ○ 左記の日時の中で、実施時間帯は参加学生の都合を確認し決定
⑦	中間報告会 @早稲田大学	3/3 (月) 10:00～12:00	○ 提案内容の中間発表 ○ 自治体職員等（@オンライン）が参加予定
⑧	対面グループワーク (@早稲田大学)	3/6 (木) 10:00～17:00	○ 最終報告会に向けて学内施設でグループワーク実施 ○ 左記の日時の中で、実施時間帯は参加学生の都合を確認し決定
⑨	プレ報告会 @早稲田大学	3/13 (木) 10:00～12:00	○ 最終報告会に向けたリハーサル（発表練習） ※自治体担当者の出席はありません。
⑩	最終報告会準備・ 追加調査期間		○ 中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえた最後のブラッシュアップ期間 ○ 必要に応じて追加のヒアリングを実施
⑪	最終報告会 @早稲田大学	3/21 (金) 10:00～12:00	○ 村長など自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約2時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1時間程度）を実施するため、解散時刻は13:00頃となります。

※上記公式日程以外でも、必要に応じてチーム内で相談・日程調整をし、自主的に活動（グループワーク・追加ヒアリング等）の上、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
 - 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
↓
 - フィールドワーク・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
 - 最終提案資料作成：
フィールドワークやヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
 - 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション
- 学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声 ※当地域の参加学生以外のものも含まれます

ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）机上の空論でない地方創生とは何かを学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができ、意見を出すことの躊躇いがなくなりました。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にあると強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）

問合せ先	教務部教育連携課※（ rbso@list.waseda.jp ） 問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。 ※教務部教育連携課は 12 月 1 日以降 Office of the Global Citizenship Center に名称変更します。
------	--